

目次

- 1、目次
- 2、持ち物の参考
- 3、医療連携について
- 4、ボランティア活動手順
- 5、作業内容へのQ&A
- 6、ボランティア活動の参考に
- 7、鍼灸マッサージ非適応ガイドライン
- 8、むくみのマッサージ非適応ガイドライン
- 9、避難所における被災者のこころのケアについて
- 10、治療者自身のこころのケアについて
- 11、Incident Manual ～医療事故を防ぐために～
(資料)
- 12、避難所担当保健師の方へ (配布用)
- 13、災害鍼灸マッサージプロジェクト専用カルテ (鍼灸/マッサージ用)
- 14、災害鍼灸マッサージプロジェクト専用記録用紙 (避難所内巡回マッサージ/職員用)

2011年9月15日版

災害鍼灸マッサージプロジェクト

2. 持ち物の参考

・通常の治療用具

ご自分の使いやすいものをご準備ください

・名刺

活動場所の責任者や保健師さんとの挨拶に用います

・白衣

白衣を着ることだけで、他の医療職への相談がスムーズに行えます。

・血圧計

治療のみならず、被災者の方の健康管理へも寄与できます。

また数字は、他の医療職種との共通用語となります。

お手元がない場合、プロジェクトの用意したものをお使いください。

・体温計

同上。発熱の有無の確認は、感染症の予防にも重要です。

・カルテ（鍼灸用）…

用意してあるものをお使いください。

カルテは名前順に整理し後任がすぐ取り出せるようにしてください。

・記録用紙（マッサージ用）…

記録用紙はコピーして、異常のある方にチェックを入れた上、担当部署または

担当保健師さんへ提出し、原本はファイルに保存してください。

・名札

患者さんやスタッフに名前を覚えていただきます。

・その他

個室のない場所ではテントを持ち込むなど、臨機応変に対処しましょう

3. 医療連携について

活動を開始する際は必ず、その避難所の保健師さんをはじめとした他の医療職との名刺交換、挨拶を行います。特にその場の被災者全体の健康管理を担う保健師さんへは、末尾参考資料の「避難所担当保健師の方へ」を手渡し、医療連携をとらせてもらう意思を伝えましょう。

1、保健師さんとの連携

活動開始時に保健師さんへ、名刺交換と共にきちんと挨拶し、報告させてもらう旨を伝えます。すると、患者の訴え（たとえば腰痛）の原因が生活環境であるならば、保健師さんが部屋の調整（床に毛布だけというスペースに椅子を置く）をしてくださったり、高血圧の人はその後も注意して観察して下さる、などの対応をしてくれます。避難所内をまわる保健師さんの紹介で患者さんがいらっしゃることもあります。

また、こうした連携がとれていけば、万一、施術による事故が起こった場合も、速やかに医療機関へつなぐことができます。これは、ひいては治療家自身を守ることにともなうものでしょう。報告先を持つことで、私たちも安全に、また存分に治療活動に携わることができるのです。

2、このころのケアチームとの連携

他に連携をとるべき業種として、このころのケアチームが挙げられます。当団体では、はじめにご挨拶した際、このころのケアチームの方から「避難所では周りの目を気にして、なかなか自分の気持ちを言えないので、そういう方が本音を話せるのは鍼灸室だと思います。宜しく願います」というお話を頂きました。

明らかに精神症状など、対応に苦慮するケースに出会った場合、施術者が一人で抱え込まないことが大切です。被災者の方へ最善の選択肢を提供するためにも、連携が求められるのです。ただし、このころのケアチームと独自に関係を作るのが、保健師さんを通すのか、現場によって異なるので、担当の保健師さんとよく相談してください。

3、医師との連携

保健師さんとの関係がきちんとしていけば、自然と担当医師にも相談しやすい環境となります。普段診ないような症状、聞いたことのない訴えに直面した時、手元に資料のない現場では、相談可能なパートナーを持つことが、治療家自身を助けることとなります。ましてや緊急の症状に出会ったときは、1秒でも早く医師へつなぐことが求められます。

2011/05/20

災害鍼灸マッサージプロジェクト

2011/05/04

災害鍼灸マッサージプロジェクト

5. 作業内容へのQ&A

4. ボランティア活動手順

Q, なぜ血圧や体温の測定ををするのですか

A, 治療をして、喜ばれる。それだけでも嬉しいことなのです。ただ、わずかな日間の滞在のボランティアであっても、医療職である以上、そこで暮らす被災者の方々の数十日、それ以上の生活を考える視野が必要です。患者がどんな訴えを持っていたか、バイタルがどんな数値であったかを、被災者の健康管理を任務とする避難所保健師さんや、その他担当部署へ報告することで、私たちは治療のみならず、長期的な健康管理にも寄与できます。血圧や体温は他の医療職との共通用語ですから、報告先を持つきっかけにもなります。

1、団体へ登録

2、保険加入および現地ボランティアセンターへ登録

3、現地受け入れ担当者（各所窓口）へ連絡

4、活動日時の確定

5、活動場所へ到着後、保健師/担当部署へ挨拶

6、治療室へ（到着を広報してもらい、予約をとるとスムーズです）

Q, なぜ報告ををするのですか

A, 保健師さんと連携がとれていれば、万一、施術による事故が起こった場合や緊急の症状に出会った場合でも、速やかに医療機関へつなぐことができます。自然と担当医師にも相談しやすい環境となります。上記したように、血圧などの報告をすることで、施術にとまらず、長期的な健康管理にも寄与できます。

また、こころのケアチームとの連携がとれていれば、明らかな精神症状など、対応に苦慮するケースに出合った場合、施術者が一人で抱え込まずに済みます。このように、被災者の方へ最善の選択肢を提供することができます。

7、患者さんがいらしたら
治療開始前に
・氏名、部署の記録
・血圧測定→記録
・カルテへの記録【重要】

1、患者さんの話から得られた情報
2、身体診察・検査から得られた客観的な記録（検査所見など）
3、評価。1と2から考えられる全体像
4、治療方針・内容、生活指導
の順で記載します。

Q, なぜカルテを書くのですか

A, 例えば咳の出る患者さんは多いですが、発症後2〜3日なのか、2週間以上続いているのかで対応は異なります（2週間を越える咳は肺結核などの恐れもあります）。また、これまででの患者さんの中には肺炎キヤリアの方の存在も報告されていますが、患者さんは施術者が変わるたびにその事実を報告してくれれば限りません。その点、こういった情報がカルテにより送り送られていくことで、私たち治療家の安全も確保されます。

なお、流派によって異なるような表記は省き、一般的・具体的な症状を短く明記します。ある期間、数名の施術者を経ても症状が改善されおらず、むしろ長期的に悪化しているような場合、すぐに保健師または担当部署へ報告できるようにしましょう。

8、治療：事故のないように、消毒その他、どうぞよろしくお願いします。

9、治療終了後、片づけ、掃除。

10、当日加療した全員分の記録（カルテと別紙の報告用紙）を担当保健師/部署へ提出。
その際、血圧の異常値や特に報告すべき点には印を付記すること。
マッサージの場合、血圧データの異常値や気付いた点、訴えのあった内容を口頭で報告しても構いません。鍼灸師も、保健師と相談し、報告は口頭でも構いません。

2011/05/06
災害鍼灸マッサージプロジェクト

2011/05/20
災害鍼灸マッサージプロジェクト

6. ボランティア活動の参考に

● マッサージ師と鍼灸師の連携

得意な分野の異なる治療家同士が居合わせたなら、それは幸運です。私たちの現場では、マッサージ師たちが避難所の中を広くまわってニーズを拾い、鍼が向きそうな患者さんには鍼灸師を紹介するという、非常に良い連携がとれておりました。特に、鍼灸スペースで患者を待つのではなく、積極的に所内を回るマッサージ師は、避難所の中の様々な問題点に気づきやすく、これを保健師へ報告することにより、避難所の生活環境を整える役割の点でも貴重な働きを担いました。さらに、忙しい職員への施術は、わざわざ鍼灸治療スペースに来てもらうのではなく、それぞれ仕事をしている椅子に座ったまま、マッサージ師たちが肩をもんで周る、という方法が非常に好評でした。

● 弱視の施術者

私たちのチームでは、弱視の施術者は学生ボランティアとペアにすることにしております。施術者は施術に専念でき、学生は血圧測定や記録などの補助をしつつ施術を見学できるシステムです。アクセシビリティやライオンなど、ある程度環境の整った避難所であれば、弱視の方も活躍できるはずです。鍼灸師も、マッサージ師も、学生も、それぞれが皆、大切な役割を果たすことができます。

● 地元治療家への配慮

現在、ボランティアの私たちが治療にあたっている方たちは、いずれは地元の先生方の患者さんになるでしょう。活動開始以来、これまでのべ2000名を超える方の治療にあたってきた当団体の活動でも、鍼灸マッサージを初めて受けたという地元の方が圧倒的に多く、異口同音に「こんなに良いものを、なぜ早く知らなかったのだろう」と言っていたことがあります。

これらの方々を、地元の先生につないでいくことが、当団体の目的の一つであり、被災地の方々の健康管理への貢献であると考えております。但し、地元の先生方も被災者であるため、事前にきちんと確認を取るなど、無理のない紹介方法が求められます。

2011/05/27 改訂

災害鍼灸マッサージプロジェクト

7. 鍼灸・マッサージ非適応ガイドライン

2011/05/27 改訂

災害鍼灸マッサージプロジェクト

保健師・医師へつないだ方が良い疾患を紹介します。

- 1、**広がる胸痛** ⇒ 虚血性心疾患（狭心症や心筋梗塞など）の疑い
 - ・ 前胸部～左胸部、左肩～腕、心窩部、前頸部～下顎へと胸痛が広がる
 - ・ 胸痛＋胸やけ or 肩凝り or 歯痛も要注意
 ※高齢者＋糖尿病では痛みのない心筋梗塞もある
- 2、**突発、憎悪、最悪の頭痛** ⇒ 脳卒中
 - ・ 不整脈ほか心臓疾患の既往の確認
 - ・ TIA（一過性脳虚血発作）の有無を、患者さんにわかりやすい表現を用いて確認**半身の運動麻痺（半身にうまく力が入らない）、感覚麻痺、失語症、片眼の視野障害めまい、構音障害、複視、意識障害を伴わない下肢の脱力による転倒**
 - ・ バレー徴候の確認
- 3、**突然の高熱、39℃以上、悪寒、筋肉痛** ⇒ インフルエンザの疑い
- 4、**吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、(発熱)** ⇒ 感染症の疑い
- 5、**黄褐色の痰、発熱** ⇒ 肺炎の疑い
- 6、**2週間以上続く咳、血性痰** ⇒ 肺結核の疑い
- 7、**ぐったりしている、尿が少ない or 濃い、皮膚をつまんで戻らない** ⇒ 脱水症の疑い
- 8、**パニックなど明らかに明らかな精神症状、強い不安感、1か月を超える不眠、著しい体重減少、自殺のおそれのある人** ⇒ 心のケアへ

※専門家に対応を依頼する際には、被災者へ、気づかいは伝えながら紹介する理由を説明し、同意を得るようにしましょう。

※既往歴、現在治療中の病気、服用中の薬に注意しましょう。

参考 (社)日本老年医学会「一般救護者用・災害時高齢者医療マニュアル」

9. 避難所における被災者のこころのケアについて

一度きりの関係である外部ボランティアが被災体験を詳しく聞き出すことは、こころのケアとして望ましくない場合があります。積極的な質問を控えて見守り、支える気持ちを持ちつつ、肉体的苦痛の除去に徹することが、精神的治療の最善の手段と考えてよいでしょう。ただし、胸の内にため込んでいるものをガス抜き程度に外へ出すことが必要な時もあります。また、被災者同士の会話と異なり、外部の人にだからこそ話せる内容もあり、そのような点でボランティアの治療者の存在は貴重でしょう。

被災体験を聞く時のポイントは2点です。

- ①詳しく尋ねたりせず、被災当時の体験に投入させ過ぎない
- ②治療の最後に、日常生活に意識を向けるような（現実に戻す）会話をする

また、目の前の患者さんの、被災前の生活をじっくりと聴いてあげることが大切な時もあります。「確かにそういう仕事/生活をしている方だった」と受け止めることで、震災の前後で断絶してしまったその方のアイデンティティを回復させるお手伝いになります。

- 1. 話を聞かない方が良いということでしょうか
⇒「ガス抜きは必要」と書きましたように、話を聞くこと自体は非常に大切です。ほとんどの治療家の方々も日々の臨床の中で実感なさっているように、身体に触れながら話せることは、鍼灸マッサージ師治療の特性であり、これは災害医療においても大きな役割を果たしています。「被災体験談を掘り下げないこと」とは、飽くまで「無理に聞き出さないこと」とご理解ください。
- 2. 対処に困るような事例に出会った場合、どうすればよいでしょうか
⇒取り乱すなど、私たちでは対応しきれないケースがあった場合への対処のために、「こころのケアチーム」へ報告、相談できるよう、あらかじめ連携をとっておきましょう。
- 3. 地元の治療家は話を聞くことができると思うのですが、いかがでしょうか
⇒被災地が地元である鍼灸マッサージ師の先生方は、患者さんに継続的にじっくりと向き合うことができる分、短期のボランティアとは違った長期的な支援と対応が可能です。同じ被災体験をした地元の施術者にはかできないこころのケアがあります。「治療の最後に、日常生活に意識を向けるような（現実に戻す）会話をすること」のみご注意ください。

2011/05/27
災害鍼灸マッサージプロジェクト

8. むくみのマッサージ非適応ガイドライン

2011/05/27 改訂
災害鍼灸マッサージプロジェクト

一避難所で頻度の高いと思われる疾患を見分ける一

◎ むくみには直接、指圧、強いマッサージをしないこと

1、ふくらはぎの左右非対称性のむくみ+押すとへこむ圧痕+突然の発症+（圧痛）

⇒ 深部静脈血栓症の疑い

2、顔、脛（まぶた）のむくみ+朝方+尿量が少ない

⇒ 腎性浮腫の疑い

3、全身のむくみ+息切れ、呼吸困難

⇒ 肺血栓塞栓症の疑い

4、短期間での急激なむくみ+体重増加

⇒ 心不全の疑い

※既往歴・現在、治療中の病气・服用している薬に注意すること

参考 （社）日本老年医学会・高齢者災害時医療ガイドライン（2011）

10. 治療者自身のこころのケアについて

被災地で、連体の目撃など強烈な体験をするボランティアや、いくつもの被災体験を繰り返して聴くこと、毎日瓦礫の風景を目にしてきたことで疲労するボランティアもいらっしゃると思います。治療者自身の体調管理と並んで、自らのこころをケアする方法を留意しておくと良いでしょう。

- 例えば、
- ・現地から携帯電話で家族や友人と話す
 - ・帰り道に温泉に寄って帰る
 - ・帰り道にお土産を買って帰る
- などです。

それでも、帰宅後、何らかの精神的不調、例えば

- ・落ち着かずイライラする
 - ・動悸がする
 - ・普段の街並みが瓦礫に見える
- などが起こった場合、

現地で共に活動した治療家の仲間に連絡を取り、体験を共有することは有効です。

さらに万一、上記のような不調が続く場合、

災害鍼灸マッサージプロジェクトではボランティアの臨床心理士が相談に応じます。団体までお気軽にご連絡ください。

2011/05/27
災害鍼灸マッサージプロジェクト

災プロ Incident manual

～鍼灸マッサージ師によるボランティア活動中の医療事故を防ぐために～

これまでのボランティア参加者による施術後、被災地の患者さんより拳がった各種の訴えと、その対策をお知らせします。必ず熟読し、後任による再発が起こることの無いよう、また私たちの施術を被災地の方々が無事に利用して頂けるよう、どうぞご留意ください。

<事故を未然に防ぐために>

- 施術時は時間的、体力的余裕を持つこと
- 複数の訴えがあった場合、一度に全て治療しようせず、カルテにより後任へ引き継ぐ
- 患者さんの氏名、施術部位、申し送り事項について、カルテとの照合を必ず行う
- 万一事故が発生した場合は、直ちに本部へ連絡して指示を仰ぐとともに、発生状況と患者の訴えについて詳細に記録を残すこと

<実際に報告されたケース>

- ① 抜鍼忘れ
 - ② 内出血
 - ③ 貧血
 - ④ 円皮鍼の説明不足
 - ⑤ マッサージによる採み返し
- 上記のケースに関して、経緯、原因、予防と対策を紹介します。

① 抜鍼忘れ

【経緯】

腰痛および肩の痛みを主訴とする患者さんへの施術後、肩への鍼を抜き忘れて帰ってしまった。翌日、施術した鍼灸師へ第三者から連絡が入った。重大事故にはつながらなかったものの、抗議があった。

【原因】

1. 30分という決められた時間の中、腰と肩の2箇所への施術を一度に試みたために施術時間が短くなり、鍼の本数の確認に十分な時間を割くことができなかった。
2. 手繰りあげた衣服を留めたクリップがゆるみ、袖が鍼を覆っていたため、置鍼した鍼を見落とした。

【予防対策】

1. 治療前後で使用した鍼の本数を数え確認する
 - ✓ ディスボ鍼置の数と、抜いた鍼の数とが合致していることを確認する
 - ✓ できるだけ鍼柄に色が付いているディスボーザル鍼を用いる
 - ✓ 施術後すぐに施術箇所をカルテへ記載する
2. 時間的制約を感じた場合、一度に全て治療せず、カルテにより後任へ引き継ぐ
3. 発生時は、内職損傷の有無を確認し、医師の診察を仰ぐ

② 内出血

【経緯】

鍼灸治療を受けた翌日、頸部の内出血の訴えを施術者とは別の後任の鍼灸師が受けた。

【原因】

稀におこることであるが、事前説明が不足し、患者へ不安を与えてしまった。

【予防と対策】

- ・ 稀に内出血の起こること、発生しても自然消退し問題のないことを事前説明する
- ・ 顔面や頸部など、内出血を起こしやすい部位への施術は特に注意を要する
- ・ 内出血を起こしやすい特定の疾患や服薬がないか予め患者へ確認する

③ 貧血

【経緯】

マッサージを希望していた患者へ、確認せずに鍼灸を施術。施術後に貧血を訴えたため、別の鍼灸師が返し鍼（足三里穴：前脛骨筋筋腹）で対応した。

【原因】

1. 患者の希望する施術スタイルの確認不足
2. 施術の際の説明不足

【予防と対策】

1. 患者の希望する施術内容の確認を行う
2. 施術時の不安を取り除くよう努める

④ 円皮鍼の説明不足

【経緯】

1. 円皮鍼を貼って帰したところ、後日、剥がれた鍼を心配する訴えが後任にあった。
2. 円皮鍼を貼って帰したところ、後日、症状の悪化の訴えが後任にあった。

【原因】

1. 自然にはがれても他の者に刺さる恐れのないことの説明が不足した。
2. 後のフォローのできない治療方法の選択であった

【予防と対策】

1. 円皮鍼は用いない
2. 用いる際は、自然に剥がれた時の対応、はがす日数の目安の指定などの説明を行う

⑤ マッサージによる痛み返し

【経緯】

マッサージを受けた翌日、全身が痛くなったと後任に訴えがあった

【原因】

患者の感受性を越えた強度のマッサージを行った

【予防と対策】

1. 治療中に刺激の強弱を患者へ確認する
2. 稀に痛み返しのあることを事前事後に予め説明しておく

<その他留意していただきたいこと>

現地で問題が発生した場合、または懸念事項がある場合は速やかに現地リーダーと後方支援スタッフにご報告ください。また、患者様のカルテ・現地連絡ノートにも詳細を記すなど、後任の方がわかりやすいように記録を残すよう努めてください。

また、ここに紹介する事例以外にも、鍼灸治療において一般的に予想される事故として以下があります。くれぐれも注意していただくよう、お願い申し上げます。

- ・ 臓器損傷（例：気胸など）
- ・ 感染症（例：B型肝炎など）
- ・ お灸による火傷

なお、前任者のミスに対して、後任が謝罪を求められる場合もあります。自らの仲間による事故と受け止めて頂き、柔軟な対応をお願い申し上げます。

| | |
|----------|-------|
| 会場名 (場所) | 氏名頭文字 |
| 部署 (所属) | |

【初診】 施術記録

| | | | | |
|---|-----------|----------|----------------|-------------------------------------|
| フリガナ | 性別 | 生年月日 | 平成 年 月 日 (曜日) | 鍼灸マッサーJ資格 |
| 氏名 | 男 女 | T S H | 年 月 日 歳 | 鍼灸マッサーJ資格 鍼灸マッサーJ資格 鍼灸マッサーJ資格 |
| [主訴 (困っていること)] | | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. いつから (災害の前・後) 2. どこが 3. どのような 4. どの程度 5. 発症状況 6. 増悪因子 緩和因子 7. 随伴症状 | | | | |
| [問診項目] | 睡眠 | 便秘 | 食欲 | 体重の変化 |
| [バイタル] | 血圧 / mmHg | 脈拍 | 呼吸数 /分 | 体温 ℃ |
| [身体診察/治療内容] | | | | |
| [引継事項 (既往歴、家族歴、服薬、受診状況、生活、心理等)] 施術者は順次追加記入してください | | | | |

災害鍼灸マッサーJプロジェクト

避難所担当保健師の方へ

こちらで活動させていただきまます鍼灸マッサーJ師です。
 私たちは施術により、被災者の方々の身心の疲労を軽減するとともに健康管理へも寄与するため、以下のような協力をさせていただきます。

1、血圧・体温などデータの報告
 施術を希望される患者さんの血圧測定を行い、異常値をご報告させていただきます。
 発熱の疑いがあるときは、検温も行い、ご報告させていただきます。

2、主訴の報告
 施術を希望された患者さんがどのような身心の不調を訴えたのか、ご報告させていただきます。

3、住居環境の報告
 生活環境に関して、施術中に患者さんから出た要望や改善希望点をご報告させていただきます。

4、こころの報告
 施術中に患者さんが話された悩みなどが専門的に対処すべき内容(強い不安感、根強い不眠、5kg以上の体重減少など)であった場合、ご報告させていただきます。

5、その他
 保健師の方々からの要望がございましたら、どうぞお申し付けください。情報収集など、ご協力させていただきます。また、その他、活動中に気付いたことをご報告させていただきます。できれば幸いです。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

年 月 日

災害鍼灸マッサーJプロジェクト
 東京都調布市富士見町4-1-1-5
 代表 三輪正敬

【再診】経過記録

患者氏名： _____ 様

| | |
|--|-----------|
| 月 日 () [バイタル] 血圧 / mmHg 脈拍 /分 呼吸数 /分 体温 ℃ [問診項目] 睡眠： _____ [主訴・随伴症状] _____ [身体診察/治療内容] _____ | 施術者 _____ |
| 月 日 () [バイタル] 血圧 / mmHg 脈拍 /分 呼吸数 /分 体温 ℃ [問診項目] 睡眠： _____ [主訴・随伴症状] _____ [身体診察/治療内容] _____ | 施術者 _____ |
| 月 日 () [バイタル] 血圧 / mmHg 脈拍 /分 呼吸数 /分 体温 ℃ [問診項目] 睡眠： _____ [主訴・随伴症状] _____ [身体診察/治療内容] _____ | 施術者 _____ |

災害鍼灸マッサープロジェクト

活動場所 _____

NO. _____

日付 / /

| 氏名 / 年齢 | 所在地 | 主 訴 | 血圧/脈拍 | 備 考 |
|--------------|-----|-----|-----------------|-----|
| 1 様 歳 | | | / mmHg /分 | |
| 2 様 歳 | | | / mmHg /分 | |
| 3 様 歳 | | | / mmHg /分 | |
| 4 様 歳 | | | / mmHg /分 | |
| 5 様 歳 | | | / mmHg /分 | |
| 6 様 歳 | | | / mmHg /分 | |
| 7 様 歳 | | | / mmHg /分 | |
| 8 様 歳 | | | / mmHg /分 | |
| 9 様 歳 | | | / mmHg /分 | |
| 10 様 歳 | | | / mmHg /分 | |

災害鍼灸マッサープロジェクト